

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
日本ヒューマンセラピー専門学校	平成11年7月22日	川口英一	〒254-0801 神奈川県平塚市八重咲町7番30号 (電話) 0463-27-2002																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人鶴嶺学園	昭和60年11月1日	竹内恵司	〒254-0036 神奈川県平塚市宮松町15番16号 (電話) 0463-30-3231																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
商業実務	商業実務専門課程	フューネラル学科	平成21年文部科学省 告示第22号	-																						
学科の目的	企業との密接な連携のもと、フューネラル業界に必要な技術・見識に加え、実務に不可欠な接遇、ホスピタリティを身につけ、常に最新の技術を修得し、高い実践的能力を持つ即戦力となる人材の養成を目的にします																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	1710時間	1080時間	420時間	510時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
100人	64人	0人	5人	17人	22人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月15日 ■後期:9月16日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 ・前期・後期ごとに、試験等による成績評価 ・教育課程表に定める授業・時間数の70%以上の出席 進級:1年次の履修科目全てにおいて合格(60点以上)であること 卒業:2年次の履修科目全てにおいて合格(60点以上)であること 学校の定める内部・外部の資格を規定数以上取得																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:8月1日～9月15日 ■冬季:12月8日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	■課外活動の種類 無し																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談の実施 学校側、保護者、学生の3者面談		課外活動	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 葬儀社、冠婚葬祭業者 ■就職指導内容 ・就職ガイダンス・就職担当、教員による面接トレーニング ・企業による会社説明会 ■卒業生数 33 人 ■就職希望者数 32 人 ■就職者数 32 人 ■就職率 : 96.9 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 96.9 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>葬祭ディレクター2級</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td>エンバーマー</td> <td>③</td> <td>19人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	葬祭ディレクター2級	③	30人	30人	エンバーマー	③	19人	14人								
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
葬祭ディレクター2級	③	30人	30人																							
エンバーマー	③	19人	14人																							
中途退学の現状	■中途退学者 7名 平成30年4月1日時点において、在学者73名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者66名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、進路変更、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・本人との日常的な面談・複数教員、職員による声かけ、面談の実施・保護者との情報共有、面談		■中退率 9.5%																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 成績優秀者への奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 現在の在学者(2年生 3名 1年生 0名)																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	https://www.humanceremony.ac.jp/																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

葬祭企業数社の役職員や、葬祭業界の各部門の専門家と協同し教育課程を編成する。
専門性の高い技術を持ち現場対応力の高い人材の育成をテーマとし、教育課程編成委員会と連携して、高度な職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。葬祭業界における産業振興の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に反映し改善させていく。また、教育課程編成委員会の委員所属先以外の企業にも、別途求める人材や最近の動向についてのアンケートを実施し、その結果を教育課程編成委員会において活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は学校法人鶴嶺学園職員と企業関係者等の外部委員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。3月実施の教育課程編成委員会では、年度の総括と次年度の内容の精査をおこなう。5月の編成委員会では次年度に向けた新たな情報を取り入れ、教育課程の変更改善の元となる。審議を通じて示された要請その他の情報、意見は11月以降の本学科の教育課程の編成に活かされる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹内 恵司	(学)鶴嶺学園 理事長	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	学校関係者
竹内 圭介	(学)鶴嶺学園 副理事長	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	学校関係者
加藤 裕二	(一社)日本遺体衛生保全協会 事務局長	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	①
境野 勝久	東洋思想研究家、道塾慶陽館 主宰	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	外部関係者
川口 英一	(学)鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 校長	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	学校関係者
林 茂	(学)鶴嶺学園 事務局長	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	学校関係者
米山 誠一	(学)鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 教務主任	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	学校関係者
武田 七郎	アルファクラブグループ 顧問、元全日本冠婚葬祭互助協会 理事	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	③
関口 博紀	(有)せきぐち造花店 マネージャー	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、5月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年5月26日 9:30～11:00

第2回 平成31年3月14日 9:30～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「宗教と葬儀」の科目において実際の仏教の僧侶に講師をお願いしているが、今までは特定の宗派に偏っていた(天台宗)。各宗派の違い、地域による違いなどを学ぶ機会が必要との意見から、地域の仏教青年会に話を通し、協力を得ることで、各宗派の僧侶を呼び、講義をしていただくこととした。また、昨今の葬儀業界では施行単価の低下に悩んでいる。一部地域の問題ではなく、日本全体の傾向であり歯止めの利かない状況である。消費者全体の傾向を掴みマーケットの全体の流れを理解する学習が必要との意見から、「フューネラルマーケティング」の内容を取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専門的な知識、技術、技能に加え『①グローバルな視点 ②ホスピタリティ精神 ③組織を動かすマネジメント能力』を座学だけでなく、実習・演習を通して身につけることによって、実践的かつ専門的なレベル・クォリティの高い人材を育成することを目指す。

専門的かつ最新の業界動向の知識が必要な、専門教育科目の応用分野については、葬祭業界に長年携わっている専門家の講師を招いて授業を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や知識、技術、技能の習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習修了時には、実習の講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
フラワーデザインⅠ	枕花、籠花、花束、白菊スロープ、洋花スロープ、洋花アレンジメント、生花の生産方法、仕入れ、流通など実技中心に総合的に学ぶ	株式会社サン・ライフ
葬祭業務校内実習	故人と接する際のマナーやご遺族への説明時における葬儀担当者の心構えを葬祭の現場に携わるものとの現実に即したシミュレーションやロールプレイングを交えながら実践的に学ぶ	株式会社サン・ライフ
ファイナンシャルプランニングⅡ	葬祭にかかわる金銭的な部分(葬祭費用・相続・高額医療費請求)について、特性、手続き等について学ぶ。実際の事例を元にして演習を行い、ファイナンシャルプランニング資格の取得を目標にする	NPO法人日本FP普及協議会
斎場実習Ⅰ・Ⅱ	実際の葬祭会館において、葬儀担当者の補助として実際に葬祭実務に従事することでこれまでに学んできた知識や技術の更なる向上を図る	株式会社サン・ライフ
エンバーミング理論	遺体衛生保全の手段であるエンバーミングについてその歴史的な観点から実際にエンバーミングを行ううえで必要な技術、その理論について具体的かつ実践的に学びます	一般社団法人 日本遺体衛生保全協会

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 葬祭企業等から専門の講師を招いて、フューネラルビジネスに関する実務に即した最新の動向等の知識を担当教員に講義し、学生への指導へと活かしていく。更に、担当教員を葬祭企業に派遣し研修を受講させることで、実践的かつ専門的な技術・技能の向上に努めている。
 また、授業の進め方やシラバスの作成方法などに関する研修も実施し、常に授業方法の改善を工夫する姿勢を教員に徹底させる。
 これらの研修は、学期毎に「教員による自己評価」と「学生による教員評価」を実施し、学務主任より個々の教員に結果を示しつつ、改善すべき点を指摘し、必要な研修を判別して計画的に受講させることを研修規定に基づいて決定している。
 なお、教職員に対する研修の実施は就業規則に明記されている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「湯灌講習」(連携企業等: ㈱ケアサービス)

期間: 6月22日(金) 対象: 教員
 内容: お亡くなりになられた方とご遺族の皆様が直接触れ合う時間をもつことができる湯灌・納棺の儀は、グリーンサポート、儀式などの観点からも非常に重要な位置を占めている。ご遺族の皆様の感情が激しく揺れる、繊細な時間の中で、湯灌・納棺に携わるスタッフは、どのようなことに注意しながら業務へ臨んでいるのか、スタッフに求められるホスピタリティとは何かを湯灌専門業者の現役スタッフを講師として招き学習する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「行動科学マネジメント研修」(連携企業等: 社)行動科学マネジメント研究所)

期間: 8月20日(月) 対象: 教職員
 内容: 昨今の学生に対するアプローチ手法の妥当性を検証。その人の「人格」に注目するのではなく「行動」を評価する手法を学ぶ

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「成年後見制度研修」(連携企業等: 司法書士)

期間: 9月12日(木) 対象: 教員
 内容: 近年発生してきた新ニーズの「成年後見制度」について、学生にも知識として教えるに当たり、教員としても制度内容を把握するに当たり司法書士の先生から体験談、過去事例などをもとにお話しいただき、知識を確かなものとする。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「発達障がいのある学生の対応について」(連携企業等: 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会)

期間: 2019年8月予定 対象: 教員
 内容: 昨今の発達障がい、学習障がいを持つ学生に対して適切な対応や話し方をまなぶ

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

産業界等のニーズに即した人材育成教育を行うため、企業等の学校関係者より、最新の情報、現場からの有用な意見を得ることが必要である。そのために学校自己評価委員会を立ち上げた。また、その意見をもとに学校関係者評価委員会に反映させている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育人人材等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

トータルライフについて様々な情報が得ることが出来るサン・ライフグループにいるからこそ、ご葬儀だけでなく、そこに至る人生の終末期からご葬儀後までを体系だてて学ぶ「ライフエンディングパートナー」資格の学習は継続して行うよう、意見があった。現在では1年次後期に受講させている

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
境野 勝久	東洋思想研究家、道塾慶陽館 主宰	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	教育関係
武田 七郎	アルファクラブグループ 顧問、元全日本冠婚葬祭互助協会 理事	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	企業等委員
関口 博紀	(有)せきぐち造花店 マネージャー	平成30年3月20日～平成32年3月19日(2年)	正未等委員 卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<http://www.humanceremony.ac.jp/>

公表時期: 30年6月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人鶴嶺学園では、学校教育法、専修学校設置基準、更には各種関係法令を遵守して、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいる。とりわけ本校は、フューネラル事業を担う人材を育成する教育機関として、社会で求められる人材を輩出する、実践的職業教育を提供している。本校は、こうした役割を担うに当たって、本校の情報を提供し、本校の教育活動への理解と協力、及び産業界との連携を促進することによって、産業界、学生、保護者、地域社会との信頼関係をより強めていきたいと考えている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念・目的・育人人材等
(2) 各学科等の教育	学校運営
(3) 教職員	教育活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育成果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育環境
(7) 学生納付金・修学支援	学生の募集と受け入れ
(8) 学校の財務	財務
(9) 学校評価	法令等の遵守
(10) 国際連携の状況	社会貢献
(11) その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
(ホームページ)

URL:<http://www.humanceremony.ac.jp/>

授業科目等の概要

(〇〇専門課程〇〇学科) 平成〇〇年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			葬祭概論Ⅰ	葬祭の起源、意識・宗教宗派・葬祭に関わる手続きや相談など、葬祭ディレクターとして必要不可欠な知識を養う（葬祭ディレクター2級学科対応）	1通	60		○			○		○		
○			フューネラルビジネス総論	お亡くなりになられた方に対する接し方、ご家族への心配り、挨拶、言葉遣い姿勢など葬祭業に欠かせない接遇のほかこれまでの葬祭における事例を研究する	1通	60		○	△		○			○	
○			儀礼文化	人間社会における生活の行動様式である冠婚葬祭・年中行事などから、日本特有の儀礼儀式文化と人間関係の絆・ふれあいを学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			ビジネス能力	社会人として不可欠なルール（名刺交換、訪問面談マナー、ビジネス文書作成、自己PRなど）を学び、実社会で即役立つ知識を学ぶ	1通	60		○	△		○		○		
○			ビジネス文書	実務に役立つ文書作成技能について、知識と技能の基本を身につける	1通	60		○	△		○		○		
○			ホスピタリティ実務	福祉知識、心構え、車椅子操作、福祉施設見学などを通じ、高齢者、視覚障害、お身体の不自由な方への接し方を学ぶ	1通	30			○		○			○	
○			コミュニケーション実務	敬語表現、話し方の組み立て、対話方法、聞く能力を磨くことなど、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う	1通	30		○			○		○		
○			接遇マナー	挨拶、言葉遣い、身だしなみ、電話マナー顧客心理の理解、サービス実務の基本、実践、苦情処理など、サービス業として必要なマナーを学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			パソコン実習	ビジネスにおいて必要とされるWord&Excelからプレゼンテーション、画像、映像加工までを統括的に学ぶ	1通	60		△			○	○		○	
○			総合講座	文化体験やスポーツ活動各講座を通して幅広い教養を身につける学校独自の講座	1通	30					○	○		○	
○			施行技法（室内装飾）Ⅰ	幕張や祭壇飾りの技術、心構えやその歴史的・宗教的な背景や実務に必要な知識を講義と実習を通じて学ぶ（葬祭ディレクター1級・2級幕張試験対応）	1通	60		△	○		○		○		

○			施行技法（司会）Ⅰ	式進行について、発音・イントネーション言葉使い、忌み言葉、司会の技法などを学ぶ（葬祭ディレクター1級・2級司会試験対応）	1通	30		△	○	○	○								
○			斎場実習Ⅰ	葬祭会館での基本業務姿勢を体験し葬祭業者の心得を学ぶ	1通	120				○	○	○	○						
	○	これらから3つ選択	フラワーデザインⅠ	枕花、籠花、花束、白菊スロープ、洋花スロープ、洋花アレンジメント、生花の生産方法、仕入れ、流通など実技中心に総合的に学ぶ	1通	60		△	○	○			○	○					
	○		施行技法（葬祭受付・遺送）	葬儀受注の電話対応、ストレッチャー実習、死亡届、火葬許可証、病理・行政・司法解剖・神封じなどの習慣、ご安置方法、枕飾り、ドライアイスの特徴等を総合的に学ぶ	1前	60		△	○	○	○								
	○		フューネラルマネージメント	葬祭業の実態・業界動向など就職に向けての心構えから施設の運用まで学び今後の業界展望を占う	1通	60			○		○			○					
	○		ファイナンシャルプランニングⅠ	葬祭にかかわる金銭的な部分（葬祭費用・相続・高額医療費請求）について、特性、手続き等について学ぶ。	1後	60			○		○								○
	○		医学概論	人間の死を中心にした基礎的医学を学ぶ。	1前	60			○			○							○
	○		葬祭関係法規	日本で葬祭を実施する上で、理解する必要がある法律について学ぶ	1通	60			○			○							○
	○			葬祭概論Ⅱ	海外の事情、葬儀と習俗、社葬・団体葬の知識、葬儀の関連法規など、葬祭ディレクターとして必要不可欠な諸知識を養う（葬祭ディレクター1級学科試験対応）	2前	60			○			○						○
	○		フューネラルディレクティング企画演習	ご遺族の意向をくみ取りながら、葬儀の企画・立案・セレモニーとしての施行などを幅広い角度から分析し考え方を習得する	2通	60			○			○						○	
	○		受注技法（涉外）	顧客の視点に立ち、顧客のニーズを引き出し、満足いくお別れを実現するために必要な知識・技術について学ぶ	2通	60			○			○						○	
	○		エンゼルメイク	ご家族にとって看取りの一場面となるような死化粧についての知識・技術を身につける	2前	30			○			○						○	
	○		グリーフサポート	ご遺族の悲嘆をどのように癒すかを臨床心理学を基に学術的に学ぶ（キューブラ・ロスの理論、悲嘆とは、悲嘆の処理、悲嘆のケアなど）	2通	60			○			○							○
	○		公衆衛生	死後の体の変化やターミナルケア及び各感染症について学びます	2前	30			○			○							○

○		宗教と葬儀	宗教儀礼（天台宗・真言宗・浄土真宗・臨濟宗、曹洞宗の葬儀の捉え方、葬送方法）を学ぶ	2通	60		○		○		○			
○		ゼミナール	少人数グループでの自主的学習を進め、自らフューネラルに関連するテーマの調査・学習を行うノウハウを学ぶ	2通	60			○	○		○			
○		エンバーミング理論	遺体衛生保全の手段であるエンバーミングについてその歴史的な観点から実際にエンバーミングを行ううえで必要な技術、その理論について具体的かつ実践的に学ぶ	2通	60		△		○	○	○		○	
○		総合講座	文化体験やスポーツ活動各講座を通して幅広い教養を身につける	2通	30				○		○	○		
○		葬祭業務校内実習	故人と接する際のマナーやご遺族への説明時における葬儀担当者の心構えをシミュレーションやロールプレイングを交えながら実践的に学ぶ	2前	60		△	△	○	○			○	
○		斎場実習Ⅱ	実際の葬祭会館において、葬儀担当者の補助として実際に葬祭実務に従事することでこれまでに学んできた知識や技術の更なる向上を図る	2後	120				○	○	○		○	
○	これらから4つ選択	施行技法（室内装飾）Ⅱ	幕張や祭壇飾りの技術、心構えやその歴史的・宗教的な背景や実務に必要な知識を講義と実習を通じて学ぶ（葬祭ディレクター1級・2級幕張試験対応）	2通	30		△	○		○			○	
○		施行技法（司会）Ⅱ	式進行について、発音・イントネーション言葉使い、忌み言葉、司会の技法などを学ぶ（葬祭ディレクター1級・2級司会試験対応）	2通	30		△	○		○			○	
○		フラワーデザインⅡ	枕花、籠花、花束、白菊スロープ、洋花スロープ、洋花アレンジメント、生花の生産方法、仕入れ、流通など実技中心に総合的に学ぶ	2通	30		△	○		○			○	
○		和装着付け	主に参列する親族で使われる和装の喪服の着付について学ぶ	2後	30					○	○			○
○		ファイナンシャルプランニングⅡ	葬祭にかかわる金銭的な部分（葬祭費用・相続・高額医療費請求）について、特性、手続き等について学ぶ。実際の事例を元にして演習を行い、ファイナンシャルプランニング資格の取得を目標とする	2前	30		△	○		○			○	
○		フューネラルマーケティング	葬祭業界の市場調査、レポート及び海外の葬祭事情について学ぶ	2通	30			○			○			○
○		解剖学	エンバーミングを行ううえで不可欠な解剖学の知識について学ぶ	2通	30			○			○			○
○		病理学	葬儀を行う上で必要な病理学の知識、特に、病気の進行が与える葬儀への影響について学びます。また、病理の基礎としての微生物学もあわせて学びます。	2通	30			○			○			○

